

学校名	宮崎県串間市立市木小学校
授業者	永友智子・矢野万里子・矢野恵美・佐藤尚子

1. 単元計画

1-1. 単元名

海を守る

1-2. 学年

全学年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

生活科・総合的な学習の時間

1-4. 単元の概要

○海を守る

①海の環境を守る・・・海岸清掃活動、環境保護ポスター等の作成

②川の環境を守る・・・市木川の水質、生物調査（保健所との連携）

③生活を見直す・・・環境保護のために自分たちにできること（環境教育との関連）

①については、地域の恒例行事となっている「市木浜クリーン大作戦」に、休日の実施であることも踏まえて、児童・保護者が任意での参加とした。毎回、多数の児童・保護者が参加し、環境保護への意識の高さがうかがえた。

②については、保健所と連携した水質及び生物調査を実施した。調査結果はグループごとにまとめ、県内の数か所に展示するなどして外部に情報発信した。

③については、環境教育や理科等と関連付けて自分たちにもできる環境保護活動を考えさせ、日常生活の中で実践していくように指導した。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

○ 本校はこれまでに、環境教育に重点を置いた教育活動も展開してきている。こうした教育活動の取組の成果として、児童の環境保護への関心も高いことがうかがえる。そうした児童の実態を踏まえ、より具体的に海や川及びその周辺の環境保護に関する教育活動を展開することで、児童一人一人の実態に応じた実践的な力を育成していきたい。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

○ 地域の一員として海岸の清掃作業に参加することで、世代を超えて地域全体で美しい自然を守っているのだということを理解させ、郷土への愛着を育てるとともに、自己存在感を味わわせたい。

○ 石波海岸につながる市木川の水質やそこに生息する生き物を詳しく知ることで、この美しい自然をいつまでも残したいという心情や環境保護に関わる実践的な態度を育てたい。

1-7. 単元の展開（全 5時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
0	<p><b>【海の環境を守る】</b></p> <p>○ 地域の自治会主催の「市木浜クリーン大作戦」に保護者とともに参加する。</p>	<p>評) 活動の意義を理解し、主体的に参加することができたか。</p> <p>○ 休日の活動であり、参加の強制はできないが、地域恒例の行事であることや、地域の美しい海を少しでもきれいにすることに協力することの意義を話し、主体的な参加を呼び掛ける。</p>
5	<p><b>【川の環境を守る】</b></p> <p>○ 事前学習として水質調査・水生生物調査の実施手順を学ぶ。(1時間：3～6年生)</p> <p>○ 古都橋下の河原で市木川の水質調査・水生生物調査を行う。(2時間：全学年)</p> <p>○ 調査結果をもとに、グループごとに分かりやすく模造紙にまとめる。(2時間：3～6年生)</p>	<p>評) 講師の説明を聞き、水質調査・水生生物調査の具体的な方法を理解することができたか。</p> <p>○ 専門的な内容については、必要に応じて教師が分かりやすい解説を加える。</p> <p>評) グループで協力して水質調査・水生生物調査に取り組むことができたか。</p> <p>○ 活動の際には、講師の補助的な役割や児童の安全面に関する見守りを行う。</p> <p><b>【学習協力者】</b></p> <p>・日南保健所職員 ・串間市役所職員</p> <p>評) 表やグラフ、写真等を活用して分かりやすくまとめることができたか。</p> <p>○ 伝えたいことを明確にして、まとめたものを見る人が分かりやすいかどうか留意させながらまとめることを助言する。</p> <p>○ 各グループがまとめた成果物については、大型商業施設などに展示され、多くの人に見ていただくことを伝えることで意欲を高める。</p>
0	<p><b>【生活を見直す】</b></p> <p>○ 環境教育や理科学習と関連付けて、現在の自分たちの日常生活の中で環境に与える影響について考える。</p> <p>○ 生活を見直し、自分たちにできる環境保護活動を考える。</p>	<p>評) 自分たちの日常生活を振り返り、環境に与える影響について考えることができたか。</p> <p>○ 生活を見直し、自分たちでも無理なくできる環境保護活動を考え、実際の日常生活で実践できるように支援する。</p>

## 2. 学習活動の実際

### 2-1. 単元における位置づけ

単元 5 時間中の 2～3 時間目

### 2-2. 本時の目標

- 地域の河川である市木川の水質調査及び水生生物調査を自分たちで行うことにより、現在の市木川の環境状況を知るとともに、市木川に対する愛着ときれいな河川を今後も守っていこうとする心情や環境保護活動の実践的な態度を育てる。

### 2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点 (方法)
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校から市木川の河原へ移動し、縦割りのグループごとに整列し、はじめの式を行う。</li> <li>○ 目を閉じて自然の音を聞いたり、周囲の風景を細かく観察したりする。</li> <li>○ グループごとに透視度計を使って市木川の水の透明度を調査する。次に、川の水のにおいをかいでみる。</li> <li>○ パックテストで市木川の水質を調べる。</li> <li>○ 川に入り水生生物を採取し、分類表にそって記録用紙に記録する。</li> <li>○ 後片付けを行い、おわりの式を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 体育服に着替え、交通安全に留意しながら市木川の河原へ移動させ、縦割りのグループごとに整列してはじめの式に臨ませる。</li> <li>【学習協力者】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・日南保健所職員   ・串間市役所職員</li> </ul> </li> <li>○ 普段は気につけない音や景色に焦点を絞って自分自身の耳や目で市木川の自然を感じさせる。 評) 静かに自然の音を聞き周囲の風景を見て、普段気付かないようなことに気付くことができたか。</li> <li>○ 透視度計を使って、市木川の水が透明できれいであることを実感させる。その後、においをかいで、においについても無臭であることを実感させる。 評) 透明度やにおいについても、市木川がきれいであることを実感することができたか。</li> <li>○ 講師の方の説明をしっかりと聞き、パックテストの道具を使って科学的な水質調査を行わせる。 評) 道具を正しく使って水質を調査できたか。</li> <li>○ グループで協力して川の水生生物を採取し、分類表にそって細かく分類させる。採取の際は、水生生物を必要以上に採取しないように留意させる。 評) これまでの調査結果を記録用紙に整理することができたか。</li> <li>○ 協力して後片付けを行わせ、おわりの式で講師の方への感謝の気持ちを伝えさせる。また、活動の感想を簡単に発表させる。</li> </ul>

### 3. 今回の活動の自己評価

- 今回の活動は、日南保健所や串間市役所の全面的な協力のもとに実施することができた。職員の方に調査に必要な道具の準備や調査の手順の専門的な説明等を任せることができ、ねらいを十分に達成することができた。
- 活動の終末段階で作成した成果物を大型商業施設に展示していただけたということで、児童の終末の活動意欲の向上につながるとともに、本活動の様子や成果を数多くの方に情報発信することができたことはとても有意義であった。
- 活動を通して、児童が自分自身の五感を使って地域の自然のすばらしさを感じることができたことは、今後の児童のものの見方や感じ方に良い影響を与えたと感じられる。
- 1年生から6年生までの縦割りのグループを構成して活動したことで、高学年のリーダーシップや学年の枠を超えたよりよい関係が構築できた。



### 4. 今後の課題

- 教育課程に位置づけしている本活動の実施時期が梅雨の時期と重なることもあり、河川の水の濁りや水位などの河川の状態や活動前日及び当日の天候に実施の可否が左右されてしまう面があるので、他の学校行事や体験活動等との調整を図りながら実施時期を検討する必要がある。
- 調査結果をまとめる活動では、中高学年児童が中心となって取り組んでいるが、低学年児童も発達段階を考慮してできる作業を与え、縦割りグループの意義を生かしていくことも検討したい。

### 5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

- 本学習は、日南保健所や串間市役所の協力のもとに実施が可能となったものであり、実施日や延期する場合の予備日の設定などを協力機関と連絡調整しておくことが必要不可欠である。また、実施前の入念な事前打合せや当日の役割分担などについても学校の担当職員と協力機関の担当者が綿密に連絡をとり合うことが重要である。
- 学習当日の児童の体調管理やけが・病気等に対する対策（緊急時の具体的なアクションプラン）も万全にしておくことが必要である。